

RPPC メールマガジン 第 846 号

リサイクルポート推進協議会（令和 2 年 10 月 28 日）

■事務局からのお知らせ

1) 第 1 回災害廃棄物処理検討部会

日時：10 月 28 日（水）15:00～

場所：みなと総合研究財団 3 階 会議室

Web 併用（Webex）

2) 令和 2 年度 リサイクルポートセミナー

日時：11 月 24 日（火）14:00～17:00

会場：第一ホテル東京シーフォート・YouTube Live 配信併用

（専用アカウント発行）

令和 2 年度テーマ：「with コロナ・CO2 削減時代に リサイクルイノベーション」

※添付のプログラムをご確認ください。

■■セミナーの申込は下記 URL からお願い致します。↓↓

<https://forms.gle/uuuCZrtPepFdCf8y7>

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1.函館港若松地区、カルシア土を防波堤改良に活用

北海道開発局函館開発建設部は、函館港若松地区で進めている水深 10 ㍎岸壁の工事を今年度に完了するとともに、昨年度から着工した水深 10 ㍎泊地の浚渫工事を引続き進める。浚渫した土砂はカルシア改質土にして西防波堤の改良に活用している。

若松地区の水深 10 ㍎泊地は昨年度から浚渫工事を開始しており、今年度は約 8 万立方㍎の土量を浚渫し、来年度以降に約 18 万立方㍎を実施する。泊地浚渫が完了するのは令和 4 年度の見通し。

浚渫した土砂は西防波堤の老朽化対策として、背後盛土に有効活用する。防波堤の背後は盛土工として捨石が設置されているが、この捨石を存置させた状態でカルシア改質材により固化処理した浚渫土（カルシア改質土）を直接投入する。昨年度はカルシア改質土約 9 万立方㍎を投入したほか、今年度もカルシア改質土約 9 万立方㍎を投入の予定。

2.和歌山下津港、次期改訂計画へ検討開始

和歌山県は和歌山下津港の次期港湾改訂計画にも今後取組む。現行の港湾計画は平成9年に改訂されており、既に20年以上が経過、港湾を取り巻く社会経済情勢も大きく変わってきている。

このため今年度中に長期構想のための委員会を立ち上げて検討を開始。令和3年度に長期構想ビジョンをまとめると共に、改訂計画に向けた港湾計画の素案作成などの議論を進め、令和4年度に改訂したい考え。

港湾計画改訂に向けた和歌山下津港を取り巻く環境としては、▽道路ネットワークの変化、▽情報通信技術や自動化技術の発達とその実装の進展など物流環境の動き、▽船舶の大型化や港湾周辺の用地不足など港湾利用ニーズの変化、▽南海トラフ巨大地震の発生危険性、台風の激甚化など自然災害リスクの高まり等に対応していく。

3.港湾全国大会開催、3年度予算確保へ結集。港湾の整備・振興要望を決議

日本港湾協会ら港湾関係5団体主催による「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が10月22日、千代田区平河町の砂防会館で開かれた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年より縮小して開催したが、全国の港湾都市の首長や港湾管理者など港湾関係者約350人が参集したほか、来賓として赤羽国土交通大臣らが出席。このほか竹下亘自民党港湾議員連盟会長をはじめ、衆参国会議員が応援に駆け付けた。

当日はサプライチェーンの強靱化を通じたリスク分散型社会の構築等に向け、必要な来年度港湾関係予算の確保を求める「港湾の整備・振興に関する要望書」を決議し、赤羽大臣に手交するとともに、今後、関係者一丸となって取り組んでいくことを確認した。

港湾空港タイムス 10月26日号から編集

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください